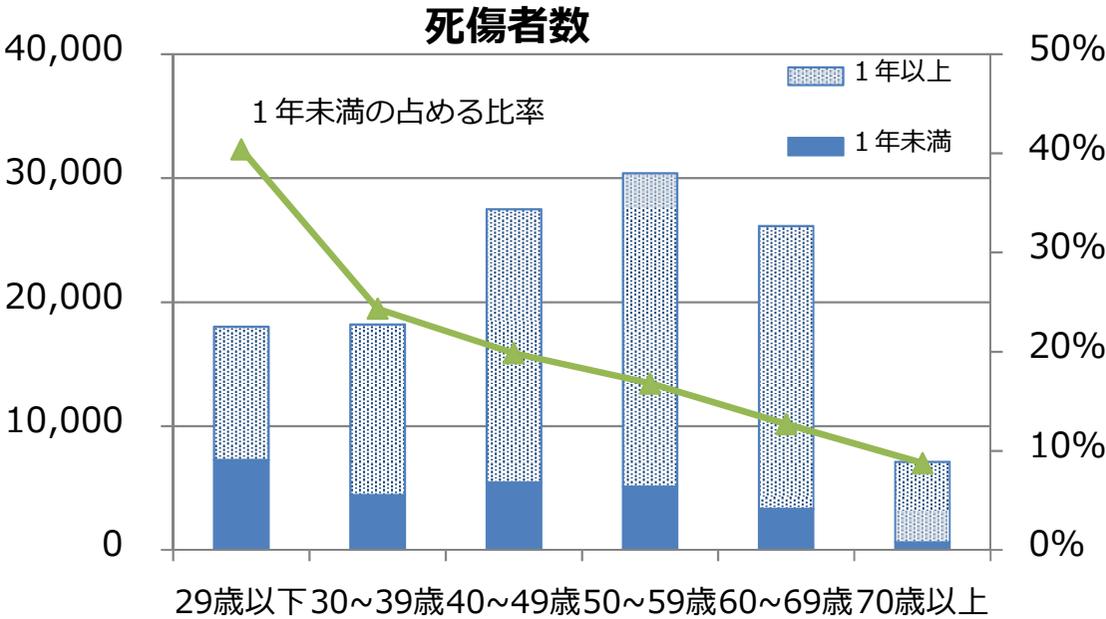
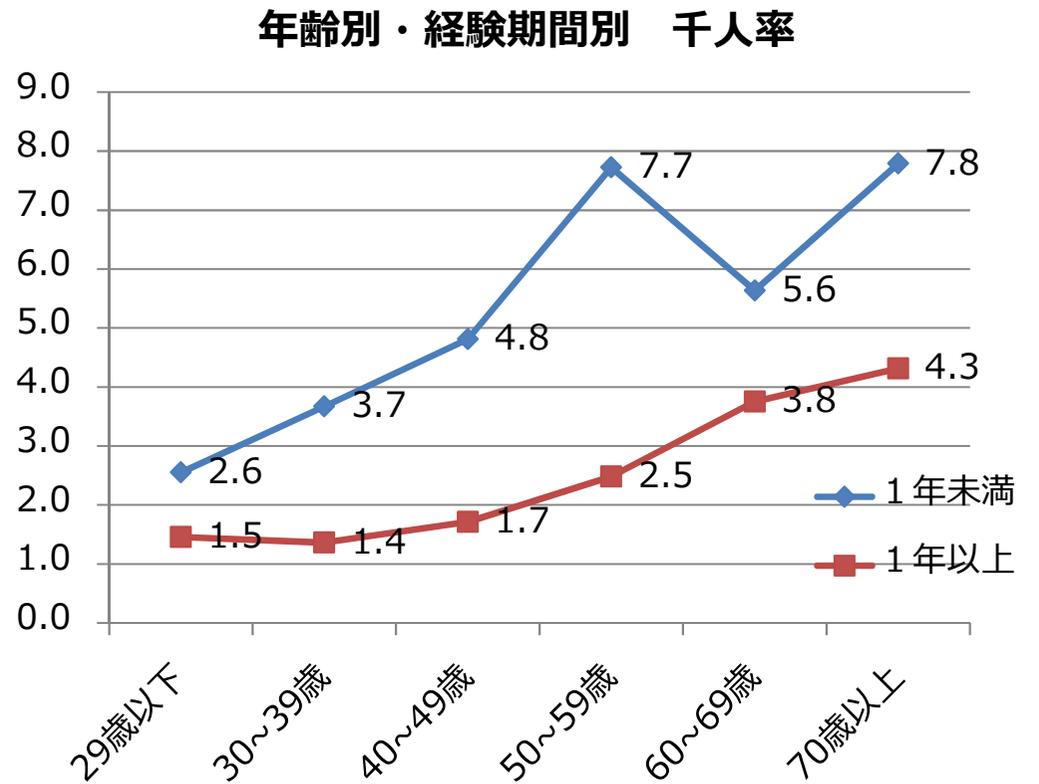
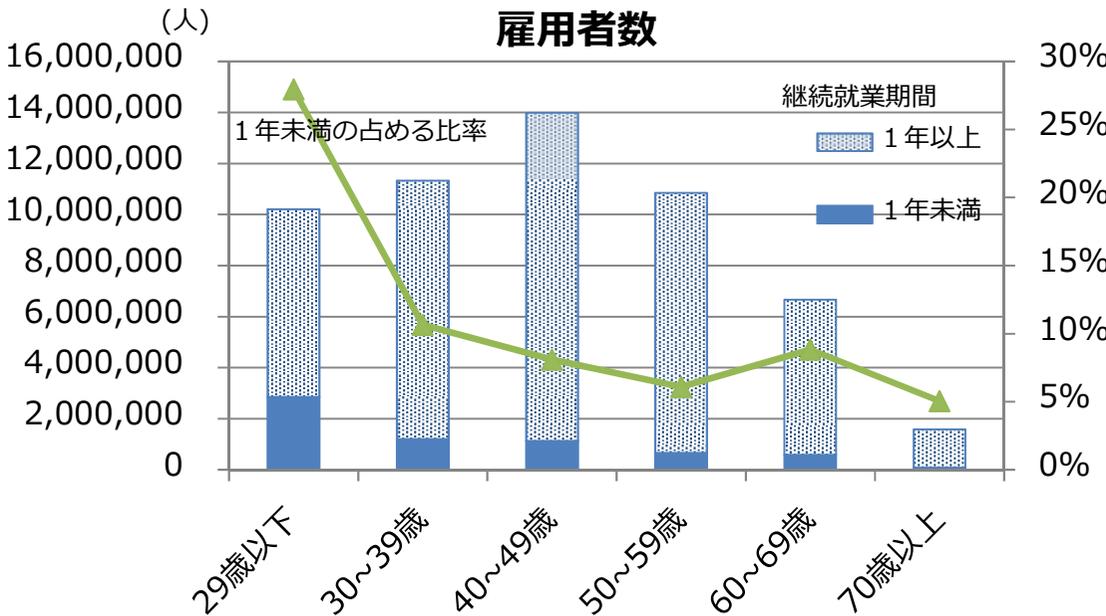


年齢別・経験期間別 千人率



- 経験の浅い未熟練労働者の割合は、死傷者数でも雇用者数でも、年齢とともに少なくなっていくが、雇用者数では60歳台に再雇用によると思われる増加がみられる。
- 年齢と経験年数とで別々に千人率を算出すると、災害の発生には年齢が上がることに加え、経験の違いも影響することがわかる。



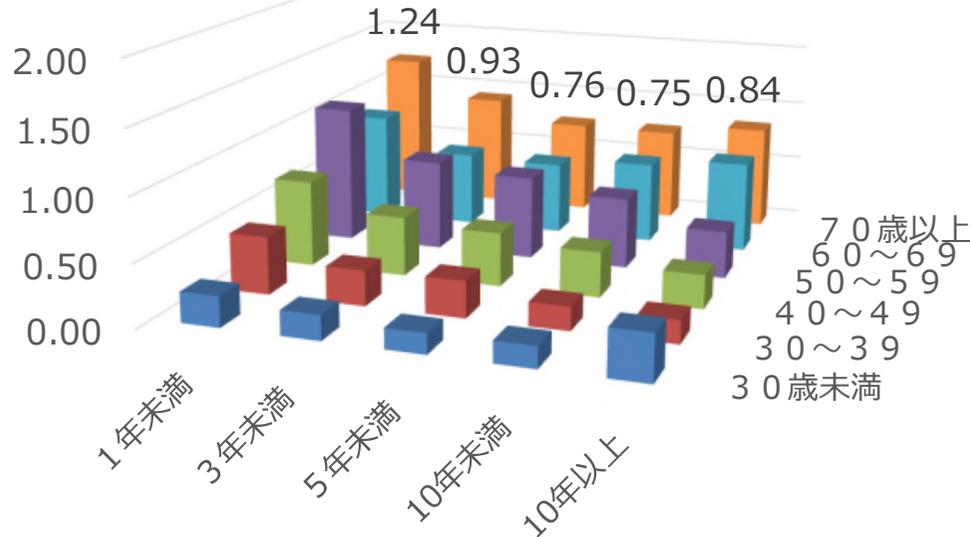
データ出所：労働者死傷病報告 休業4日以上の死傷者数（平成30年）
 就業構造基本調査 全国結果（平成29年）－第61表（雇用者（会社などの役員を除く））

千人率 = (休業4日以上の死傷者数) / (雇用者数 (役員除く)) * 1000

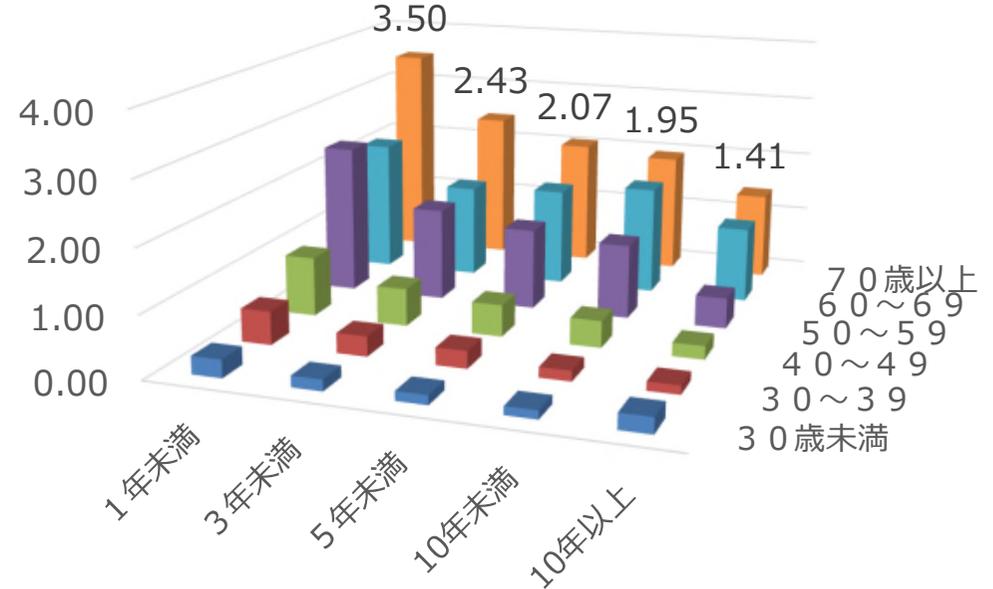
年齢別・経験期間別 事故の型別 千人率

- 同じ年齢層の中でも、経験の少ない者の方が、災害の発生率は高くなる傾向がみられる。
- 事故の型（災害の態様）によって、年齢による影響と経験による影響の度合いに違いがあると考えられる。
- 母数となる労働者数は全業種合計であり、業種や業務内容を反映していないことに留意。

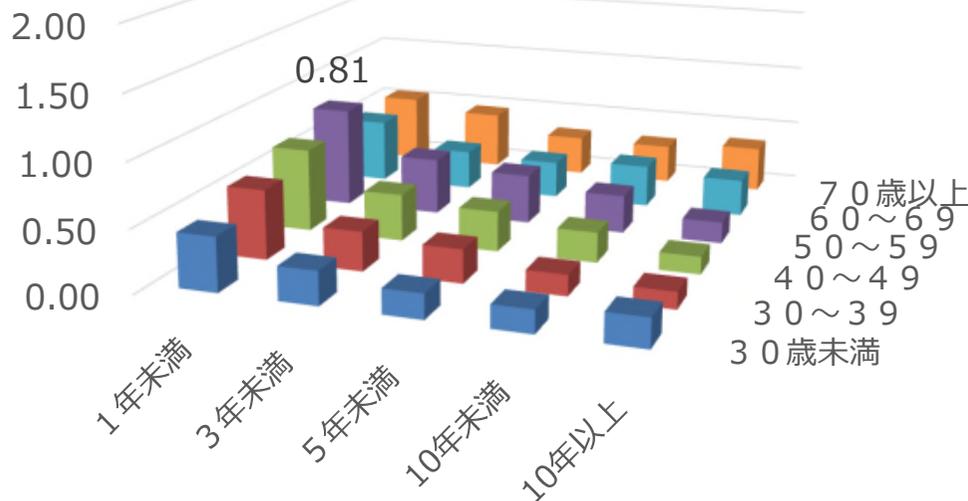
墜落・転落の年齢・経験年数別千人率



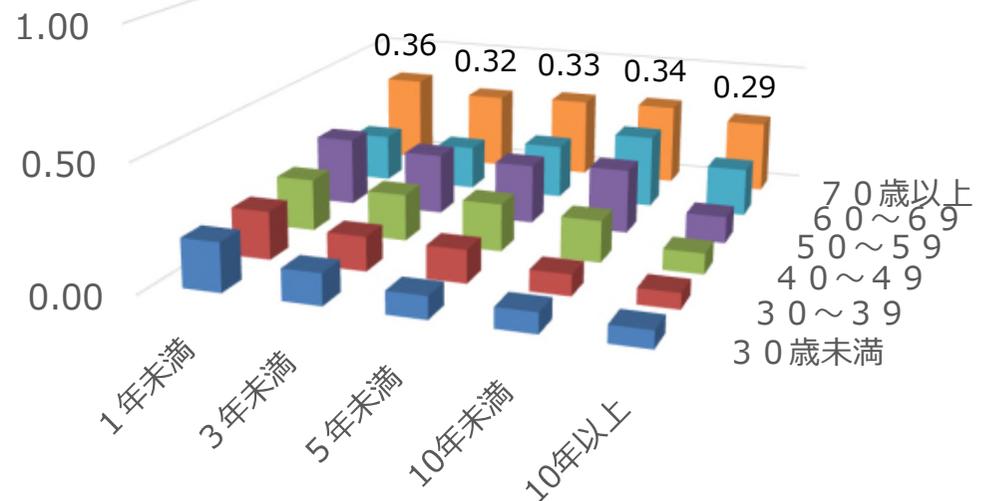
転倒の年齢・経験年数別千人率



はさまれ・巻き込まれの年齢・経験年数別千人率



交通事故（道路）の年齢・経験年数別千人率



データ出所：労働者死傷病報告 休業4日以上の死傷者数（平成30年）
 就業構造基本調査 全国結果（平成29年）-第61表（雇用者（会社などの役員を除く））

千人率 = (休業4日以上の死傷者数) / (雇用者数 (役員除く)) * 1000